

碩心

題字は松井岳洋筆

No.370

平成17年3月

発行

(社)日本詩吟学院岳風会 認可

神奈川 碩心会

発行者 加藤岳洵

編集者 磯村岳朋

神奈川県葉山町堀内206
Tel/Fax.046-875-3723

感動の詩

会計部長 加藤 芳 岳

桃の節句を喜びむかえる頃は、海の色も春らしさを帯び、逗子海岸の披露山寄りの浜辺で育った日々の懐かしい記憶が蘇ります。

そんな訳もあって、あの日の『舟艇守の尺八』を指導いただいた時の感動は忘れることが出来ず、後日の思わぬ事にもつながりました。その日のうちに母にその詩の素晴らしさを語ると「昔、男の人が海に向って、すばらしい声でうたっていらっしやっただけれど、詩吟だったとはねえ」と納得し、私は私でその人は間違い無く故松井岳洋先生であられたと確信しました。

この詩の中には「千鳥の曲」の尺八が聴こえてくるとありますので、これは是非とも皆様聞いていて戴こうと思ひ立ち、その翌年の初吟会で箏を弾きながら謡いました。

へしほの山 さしでの磯にすむ千鳥 君が御代をば 八千代とぞなく 淡路島 かよふ千

鳥のなく声に 幾夜寝ざめぬ 須磨の関守

それから何年も過ぎた昨年の暮れのこと、

松井岳洋先生のお話で、作者大野孤山先生がお住いを桜山から新宿に移された経緯を知ったことが切っ掛けで、逗子小学校時代の親友大野広子さんと結びつき、何んと孤山先生のお孫さんと判りました。「祖父の告別式には大勢の方が何やらうたって下さったのを覚えていいます」と彼女も懐かしそうでした。私とこの名詩の不思議な縁(えにし)を感じました。

さて、私は入会以来24年、ご指導頂いた吟詠は数え切れません。漢詩、和歌、俳句、新体詩等、いずれも古今東西の名詩文ばかりです。しかしこの「舟艇守」ほど忘れられない感動と想い出をもつ詩はありません。

皆さんもきつとご自分の記憶に残る想い出や感動を受けた詩文をお持ちだと思います。その詩文を吟道人生の素晴らしい友として、事あるごとに愛唱していらっしやることでしよう。愛唱吟こそ吟道精進のよき伴侶です。

行事予定

○高段者審査会

日時・4月10日(日) 9時受付
場所・はまゆう会館(横須賀市衣笠)

○第13回神奈川地区大会

日時・5月29日(日) 9時
場所・川崎市麻生市民会館

○神奈川県年齢別吟詠大会

日時・6月18日(土)・19日(日) 9時
場所・地球市民かながわプラザホール

○温習会

日時・6月19日(日) 9時受付
場所・葉山町福祉文化会館

○寒河江吟友会との姉妹会交流20周年吟行会

日程・6月9日(木)・10日(金)(蔵王泊)
行先・山形県寒河江市
参加費・300,000円
申込先・田中岳明

046・873・2576
申込〆切・4月25日(月)

○神奈川県本部吟行会

日程・9月25日(日)・27日(火)
行先・名古屋・伊勢方面
参加費・68,000円
申込先・松井岳洋

046・856・9232
申込〆切・7月25日(月)

宇都宮岳徳先生の詩に感じて

千葉 岳 関

昨年夏、突然税関時代の旧友から、彼の勤めた会社のOB誌に掲載された岳徳先生の名漢詩が手紙に添えてお送られてきた。

内容は、この詩にいたく感激したが吟友である君は知っているのかと書いてあった。

早速岳徳先生へ電話したところ、この詩は私的な内容であり傾心広報には？との遠慮深いご返事であったが、私は旧友同様この詩に感動し、重ねて「傾心」への投稿をお願いした。条件として私が紹介するという形ならということで、了承され下記の掲載となった。

私がこの詩を敢えて紹介したい理由は次ぎの通りである。

- (1)この七言古詩の類型について吟道を学ぶものとして、大いに勉強してみたいこと。
 - (2)先生の故夫人に対する愛情の深さとその一生への賞賛が滲み出ていること。これは吟道家として情の大切さを学ぶことになる。
 - (3)伝統ある傾心会において、創始者岳洋先生に次ぐ漢詩作詞者としての岳徳先生を、誇りをもって評価することが、内容から受ける感動とは別に大きな意味があること。
- どうぞこの詩文をじっくりと味わい、そして作者の気持を汲み取って頂ければ幸いです。

謹 戲 荆 妻 三 五 日 忌 率 賦

宇都宮 嶽徳 作

忽 然 歎 頭 回 相 初 併 資 心 得 能 鎌 七 水 漢 悲 展 可 悲 願 應
 妻 逝 力 吾 勵 母 者 良 蕩 初 學 彫 變 風 詠 人 作 肅 遺 膏 試 長 汝
 無 全 度 維 盡 孚 協 親 美 開 謁 鮮 雅 聲 集 當 奪 堪 切 來
 限 葬 五 家 孝 二 親 朋 術 愁 漆 彩 閑 調 祭 弔 彼 可 供 迎
 悲 儀 紀 基 養 兒 族 知 道 眉 擘 馳 趣 宜 所 詞 女 支 養 時

忽然 妻逝き 限り無く悲しきも
 歎くを止め力を振いて 葬儀を全うす
 頭を回らせば吾と契りて 五紀に度り
 相い助け相い励まし 家基を維く
 初め双母に陪し 孝養を尽し
 併せて拙者を扶け 二兒を孚む
 資性 温良 親族に協し
 心術 駘蕩 朋知に親しむ
 閑を得て漸く初む 美術の道
 能く習い篤く学び 愁眉を開く
 鎌倉 木彫 謁漆 嘩き
 七宝 窯変 鮮彩 馳す
 水墨 画風 雅閑の趣
 漢詩 吟詠 聲調 宜し
 悲傷の弔人 祭所に集り
 展観の遺作 弔詞に當る
 傷む可し膏肓の 彼女を奪うを
 悲嘆の試練 堪えて支う可し
 願わくは長生を持し 切に供養し
 應えんと欲す汝が召す 来迎の時に

わたしの 雅号の由来

長柄 笠原 岳 珠(るり子)

るり・も・はり・も磨けば光ると謂れる様に、強くて明るく健やかに育つようにとの希いを込めて「るり子」と命名したのだと、子供の頃よく父から聞かされました。

30数年前、長柄教場に入門した時は私も努力すれば先輩の皆さんのように上達できるだろうかと不安いっぱいでした。

磨けば光る(研鑽すれば上達できる)との思いで「珠」を雅号にしました。

爾来、泉山風岳と珠を通して参りましたが錬磨不足であり光りを増すことが出来ないままに馬齢を重ねてしまいました。

詩吟は生涯学習として続けて行き、親から授かった名前を大切に、光りを失わぬ老後の人生を前向きに生きようと念じております。

晴誉 矢沢 岳 峰(貞吉)

30数年前、職場の人に誘われて始めた詩吟の道。始めたからには最後までと意気と、継続は力なり・をモットーに楽しみながらもこつこつと努力を重ねて来た。

雅号を頂く時、意味のあるものをとの思いで「峰」の字を名乗った。峰とは山の頂上、

物の高い部分、刀の刃の背などの意味がある。人生には幾つもの山があり、それを乗り越えながら頂上を目指して歩む。詩吟を始めた時の我が身に重ね、向上心を持ち常に前進し頂点を目指し、ものにする迄頑張りとうと今に至っている。

この雅号を誇りに思い、今後も共に歩んで行きたい。

堀内 E 西岡 清 岳(節子)

紀元節(紀元二千六百年≡1940年)の年に誕生した私は節子と名付けられました。

この年の女子は紀子・典子を始め元子・節子と記念すべき年に因んだ名前が多く見受けられます。

雅号の命名となると「せっ泉」「せっ風」と音が詰まるので、他に何にしようかと考えた末、父の名前の一字をとり「清」と決めました。後に父にこのことを話したら、とても喜んでくれました。

泉に始まり岳の現在まで、この雅号に満足して楽しく吟道を研鑽しております。

一色 新倉 春 岳(マキ)

詩吟を習い始めて20年余り、先の温習会では高齢者表彰の榮譽に浴し感謝しております。

初めて雅号を戴くことになった初伝のとき今は亡き夫(26年前に病死)を偲び、夫の名

前「春儀」に一字を貰い「春泉」と決め、そのまま現在まで「春」を名乗っています。

今迄教室の皆さんと一緒に楽しく勉強してこられたことは感無量です。沢山の想い出と共にこれからも日々研鑽を積み過ごして行くつもりですので吟友の皆様どうぞよろしく。

東伏見 大内 萃 風(育子)

私の故郷みちのくの冬は長く厳しい。故に春待つ心は人一倍強い。一月も半ばを過ぎると農家のおばさん達が手押し車に積んだ野菜の傍らに水仙の束を乗せて売りに来る。一月生まれの私は春に先駆けて寒さの中に凜と咲く香り高い水仙の花に魅かれ、葉山に住んでは冬の日溜まりの中の水仙畑に佇む。

詩吟で泉号を戴くことになった時、迷わず「水仙」にしようと思い、さて字をどうするかで迷った。「すい」の当て字を探し、当時碩心会会長であられた根岸岳萃先生の「萃」を使わせて頂きたいと、わが師沼田岳義先生に相談し「萃泉」に決めさせていただいた。

「萃」は大辞泉によると「あつまり」の意味で、群生して咲いている水仙にも通じ大変気に入っている。

吟道という奥の深い道を凜として歩みたいと思う。しかも楽しくスイスイ歩んで行きたいと申し上げたら岳萃先生は何とおっしゃるでしょう。

第3回ふれあい講座の感想文

昨年10月28日葉山中学校に於て実施された第3回「ふれあい講座」の受講生徒11名よりの感想文の内、主なものを掲載します。

☆ 詩吟は今まで一回もやったことがなかったけれど、今日やってみたらとても楽しかったです。この講座のおかげで学ぶことができました。今日は勉強になりました。

(1年B組 女子A)

☆ 詩吟をやると聞いても詩吟の「詩」は何となく分かるけれど「吟」はあまり分からなかった。初めて吟を聞いたとき、体が震えるのが分かった。資料を見たら音の振動を感じると書いてあったのでこの事かと思った。

(1年B組 男子A)

☆ 詩吟という言葉はあまり聞いたことがなかったし、どうゆうものかも全く知りませんでした。でもこれをきっかけに詩吟についていろいろ知ることができました。

(1年B組 女子B)

☆ 今日、詩吟をやった大きな声を出すことの楽しさが分かりました。最初はつまらないなあと思ったけれど実際にやってみると本当に楽しかったです。家に帰って詩吟テキストをよく読もうと思います。

(1年B組 女子C)

会員移動

○入会 (2月1日付)

284 井出 秀子 逗子市逗子5・9・18

(逗子A)

☎046・871・3095
紹介者 鈴木 江岳

○入会 (3月1日付)

285 歌代 宗夫 横浜市港北区日吉本町6・14・12

(滝の坂)

☎045・561・6308
紹介者 上村 岳章

286 品川 榮一 東京都大田区大森西4・12・14

(滝の坂)

☎03・3766・7163
紹介者 行谷 隆風

○退会 (2月1日付)

255 村上知久 (堀内B)

平成17年「碩心会初吟会」収支決算報告

開催日：H17年1月10日(月・祝)
開催場所：鎌倉わかみや

(収入)

前期繰越金	23,680
参加費	612,000
御祝儀	15,000
合計	650,680

153名×400円
ご招待 鹿嶋岳久・加藤岳心両先生

(支出)

料理・飲み物	417,638	料理2,100×155名、ビール、ウーロン茶
会議使用料	168,000	
傷害保険	4,410	日動火災海上
お車代	15,000	来賓者2名
お車札	5,000	尺八
事務費・通信費	7,185	事務用消耗品
雑費	1,575	茶業他
会議費	14,130	担当支部・企画部準備
次期繰越	17,742	
合計	650,680	

○退会 (3月1日付)

29 渡辺岳心 (逗子A) 170 高橋友風 (幸和B)

257 高松利男 (真澄)

尚、名簿が新規に成り記載は新番号です。

★原稿大募集★

好評連載中の『わたしの雅号の由来』シリーズも満一年を迎えました。多くの方が登場し、ご自分の雅号に対する愛着をいろいろの形で披露して頂きました。まだ寄稿をしていない方、新たに雅号を受けた方、どうぞどしどしご寄稿をお願いします。(広報部)

編集後記

3月初めの大雪には、驚きました。今年は無河江吟友会姉妹会交誼20周年記念吟行会を、企画しております。丁度、名産の「さくらんぼ」の真盛りで、又、バスの中での吟詠も、なかなか良いですよ！碩心会内の交流もかねて、一人でも多くの会員に、参加して頂きたいものです。

広報部

17年3月現在	会員数
葉山地区	164名
逗子・大船地区	117名
合計	281名